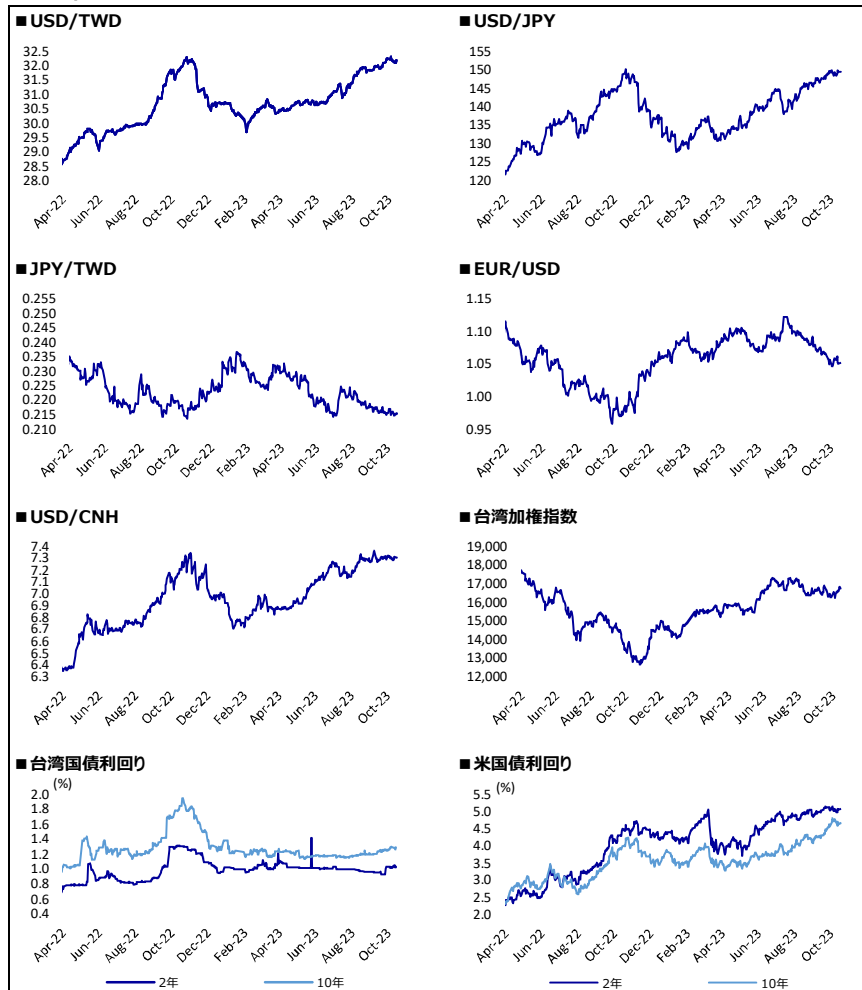


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初10/11は32.170でオープン後、台湾株が堅調に推移する中、海外投資家からの台湾株買い越し額が拡大し台湾ドル買い圧力が強まり一時32.068まで下落。その後中東における地政学リスクが意識される中、リスクセンチメントに陰りが見られ、32.122まで下げ幅を縮小する展開。10/12は事業法人による四半期現金配当の動きから台湾ドル売りが優勢となるも、海外投資家による台湾株買いが続く中、台湾ドルに買い戻しが入り32.125まで戻した。10/13は米9月CPIが市場予想対比堅調な結果となったことを受けて上昇する米金利の値動きにつられる形でギャップアップして32.180でオープン。輸入企業によるドル買いの動きや海外投資家からの台湾株売りが台湾ドル安を一段と加速させ、一時32.252まで上昇。その後は上値を押さえる動きが見られ、32.2台前半で揉み合いの推移となり、最終的には前週比概ね変わらずの32.219で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は411.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初10/9は149.15でオープン後、前週末に中東においてパレスチナからイスラエルに向け攻撃がなされたとの報道があったことを受けリスクセンチメントが悪化し、円買いが優勢となり148.5近辺まで下落。10/10も同様の流れを引き継ぎ円買いが優勢となり一時148.17まで下落。その後は米国経済への影響は軽微との見方が広まる中米国株が底堅く推移し、リスクセンチメントの悪化が一服すると円売りが優勢になり148台後半で推移。10/11は米9月PPIが市場予想対比堅調な結果となったことを受けてドル買いの動きが加速し149円台前半で推移した。10/12は米9月CPIが市場予想対比強い結果となったことから米金利が短期主導で上昇する中、ドル買いが優勢となり一時149.83まで付けた。10/13は中東における地政学リスクへの警戒感から米金利が低下する中、円買い圧力が強まった他、海外時間に入り、米国地区連銀総裁のハーカーから「現水準以上の利上げに慎重」とのスタンスが示されると、ドル売りの動きが加速。149.5を挟み揉み合いの展開。最終的には前週比0.2%ドル高円安149.56で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.200-32.400
今週は上昇を見込む。発表される米国経済指標が強い結果となった場合、米経済の堅調さが再確認され、米金利の上昇やドル買いの動きが優勢となる展開が見込まれるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：149.00-151.00
今週は上値を試す展開を見込む。先週発表された米9月CPIは堅調なことが確認されており、今週発表される米国経済指標も市場予想対比堅調な結果となった場合、ドル円は上値を試す展開となるであろう。

今週の予定

10/16 (MON)	
10/17 (TUE)	米9月小売売上高
10/18 (WED)	
10/19 (THU)	米10月フィラデルフィア連銀景況観指数
10/20 (FRI)	台湾9月輸出受注、日9月CPI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。